

もんじゅも廃炉も視野

政府が最終調整 核燃料サイクル破綻に直面

政府は14日、日本原子力研究開発機構の高速増殖炉「もんじゅ」(福井県敦賀市)の在り方について、廃炉も視野に最終調整に入り

め追加支出に国民の理解を得るのは難しいとの見方が出ており、26日召集の臨時国会前にも結論を出すとしています。

これまで建設や維持に1兆円を超える国費を投じたが、事故・トラブル続きで運転はわずか250

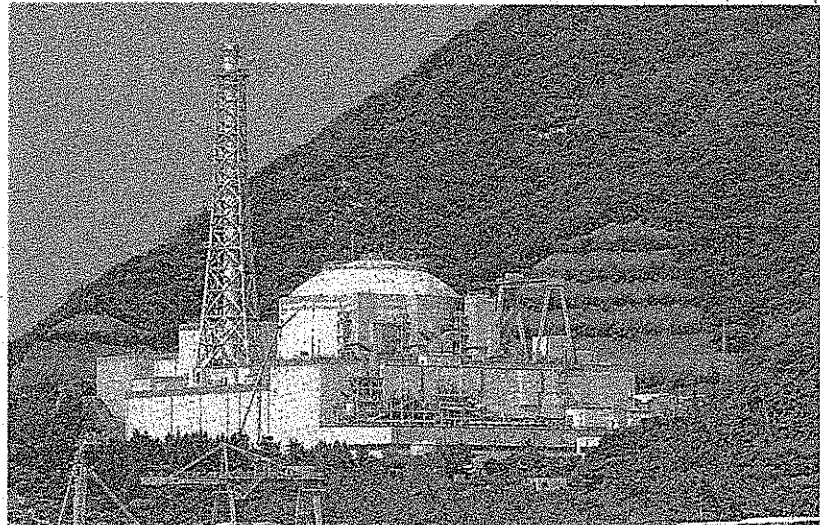
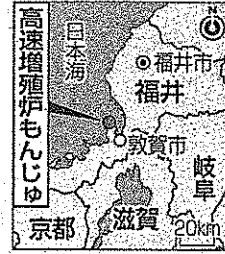
点検漏れが判明しました。規制委は13年5月、事実上の運転禁止を命じ、15年11月には運営主体の交代を文部科学相に勧告しました。

ました。もんじゅをめぐっては、原子力規制委員会が運営主体の交代を勧告して

み核燃料を再利用する核燃料サイクル政策の中核施設

日本共産党は先の参院選挙政策で、破たんが明らかにな核燃料サイクルからただちに撤退すること、高速増殖炉「もんじゅ」や再処理

工場などの関連施設の廃止を求めています。



日本原子力研究開発機構の高速増殖炉「もんじゅ」=福井県敦賀市

廃炉は当然 技術的にも行き詰まり

館野淳元中央大学教授の話 高速増殖炉「もんじゅ」の廃炉は当然で、使用済み核燃料の再処理など核燃料サイクル政策も見直す

の問題が生じました。また、ナトリウム技術など問題が多く、技術的にも行き詰まりにきています。本来、再処理は高速増殖炉で

の原発でプルサーマルをした、現実的ではありません。日本は、すでに約48トンのプルトニウムを保有しています。これをどうするか検討しなくてはなりません。

「もんじゅ」は、旧動燃の体質の問題もあり、多く

「もんじゅ」を使わなければ、使用済み核燃料の再処理工場ができて、普通

さらには、原発を動かすことで発生する使用済み燃料にも影響する問題です。原発をやる前提で、使用済み核燃料をどう収束させるかを考える機会とすべきです。



燃料を使用するプルサーマルで消費した場合、相当数